研究会の皆さんへ；

「天秤を持つ女」1662 年 - 1663 年頃
ヨハネス・フェルメール

T.ブルックの『フェルメールの帽子』を読みました。
フェルメールの絵の解説かと思いましたが、
著者は、カナダの中国史研究の専門家です。

後ろ向きの兵士の帽子は、当時（17 世紀）の、ビーヴァーの皮だそうで、それがオランダの流行だったそうです。
「デルフトの眺望」は、左手の屋根が、オランダ東会社の倉庫だとか、17 世紀の世界が、中国と如何につながっていたか、文字通り「世界史」がグローバルに書かれています。

デルフト焼きは、中国の青磁をまねたものだそうです。
「天秤をもつ女」は、銀を媒介にした世界史が語られているのだとか、
見事な歴史記述だと思います。

いい意味で、期待を裏切られた本です。興味のある方は、是非、本屋の店頭で、見てください。

岸田民樹
2014. 12. 11